



日本精神分析協会
精神分析インスティテュート
福岡支部

2021 年度 精神分析セミナー

— 第 9 期 1 年次開催のご案内 —

主催：日本精神分析協会 精神分析インスティテュート福岡支部

第 9 期 1 年次へのご挨拶

精神分析インスティテュート福岡支部運営委員長
古賀 靖彦

日本精神分析協会 Japan Psychoanalytic Society (JPS) は、国際精神分析協会 International Psychoanalytical Association (IPA) の基準に則った精神分析家になるためのコースと、JPS が独自に認定する精神分析的な精神療法家のコースの、二つの訓練コースを持っています。実際の訓練は精神分析インスティテュートが遂行し、東京と福岡にその支部があります。

福岡支部では 1996 年以來「精神分析セミナー」を開講して参りました。これは、上述の二つの訓練コースに志願するために受講すべき「基礎セミナー」であるばかりでなく、臨床家の方々が精神分析の基本を学ぶ機会ともなっています。すなわち、一期、3 年間、計 18 回 (36 日) のセミナーの中で、精神分析の定義、歴史、理論、技法、発達論、病理理解、症例研究などを学ぶことができます。講師には、福岡支部所属の精神分析家のみならず、東京をはじめ全国から出講していただいておりますので、聴講される方々は現在の日本を代表する精神分析家の講義をお聞きになれることでしょう。なお、3 年次終了後の 4 月には、3 年間の全課程を修了された方々のために、「修了者セミナー」を開催しています。

本セミナーは今年度から、昨年度 COVID-19 (新型コロナウイルス感染症) のために延期となりました、第 9 期の 1 年次に入ります。「精神分析とは何か」というごく基本的なこととして、精神分析の創始、治療法としての基本と概念、フロイトの精神病理学と症例などを学びます。

最後に、本セミナーは、日本精神分析学会認定研修グループであるとともに、日本臨床心理士資格認定協会承認研修会であることを付記しておきます。

2021年度 精神分析セミナープログラム一覧

	テーマ	日にち	時間	講義タイトル	講師
1	精神分析の基礎	5月22日(土)	15:00-17:15	精神分析とは何か・精神分析小史	西園 昌久
			17:30-20:00	無意識について	鈴木 智美
		5月23日(日)	09:30-12:00	夢と象徴機能	岡田 暁宜
			12:00-12:30	総括	鈴木 智美
2	治療としての精神分析	7月3日(土)	15:00-17:15	治療の枠組みと治療者の基本	鈴木 智美
			17:30-20:00	耳の傾け方と言語的介入技法	松木 邦裕
		7月4日(日)	09:30-12:00	治療者-患者関係	小波蔵 かおる
			12:00-12:30	総括	鈴木 智美
3	フロイトの精神病理学の基礎	9月11日(土)	15:00-17:15	発達-退行モデル・不安-防衛モデル・性欲論	岡田 暁宜
			17:30-20:00	ナルシズム論	古賀 靖彦
		9月12日(日)	09:30-12:00	対象喪失論	奥寺 崇
			12:00-12:30	総括	古賀 靖彦
4	精神分析技法の基本的概念	11月20日(土)	15:00-17:15	抵抗と転移・逆転移	松木 邦裕
			17:30-20:00	行動化/陰性治療反応	古賀 靖彦
		11月21日(日)	09:30-12:00	解釈とワーキングスルー	松木 邦裕
			12:00-12:30	総括	松木 邦裕
5	フロイトの症例①	2022年1月15日(土)	15:00-17:15	ヒステリー研究	古賀 靖彦
			17:30-20:00	ドラ	皆川 英明
		1月16日(日)	09:30-12:00	少年ハンス	鈴木 智美
			12:00-12:30	総括	古賀 靖彦
6	フロイトの症例②	3月12日(土)	15:00-17:15	シュレーバー	松木 邦裕
			17:30-20:00	狼男	権 成鉉
		3月13日(日)	09:30-12:00	ねずみ男	北山 修
			12:00-12:30	総括	松木 邦裕

I. 精神分析の基礎

コーディネーター：鈴木 智美

精神分析は100年の歴史を経て、変わったものもありますし、まったく変わらないものもあります。

ここでは、精神分析の歴史をひもときながら、その基本的な概念である無意識、その手がかりとなる夢や象徴機能について学びます。

1. 精神分析とは何か・精神分析小史

西園 昌久（心理社会的精神医学研究所）

(1) 精神分析とは

a) 定義 b) 精神装置 c) 神経症の治療

(2) 精神分析小史

a) Freud の開発 b) 発展と各学派の活動・対立
c) 我が国での導入と発展

◆参考図書：

- 1) フロイト著作集1「精神分析入門」(人文書院)
- 2) フロイト著作集11「精神分析とリビドー理論」(人文書院)
- 3) 西園昌久；精神分析を語る－こころの深層への道(岩崎学術出版社)
- 4) Meltzer.D「クライン派の発展」(金剛出版)
- 5) Kohon.G「英国独立学派の精神分析」(金剛出版)
- 6) Strozier.C.B「ハインツ・コフトその生涯と自己心理学」(金剛出版)

2. 無意識について

鈴木 智美（精神分析キャビネ）

- (1) フロイトが見出した無意識
- (2) 日常生活にみる無意識
- (3) 臨床のなかにみる無意識

◆参考図書：

- 1) フロイト著作集4『日常生活の精神病理学』、(人文書院)
- 2) フロイト著作集6『無意識について』(人文書院)
- 3) 古賀靖彦編「現代精神分析基礎講座第1巻精神分析の基礎」金剛出版

3. 夢と象徴機能

岡田 暁宜（名古屋工業大学保健センター）

- (1) 夢機能
- (2) 象徴機能
- (3) 比喻

◆参考図書：

- 1) フロイト著作集1：精神分析入門（正・続）、人文書院.
- 2) Hann Segal: Dream, Phantasy and Art, Routledge, 1990. [新宮一成訳：夢・幻想・芸術—象徴作用の精神分析理論、金剛出版、1994]
- 3) 現代精神分析基礎講座第1巻 精神分析の基礎 金剛出版

II. 治療としての精神分析

コーディネーター：鈴木 智美

精神分析は実践の方法であり、その学問です。

この回では、実践にあたっての基本的な治療の設定、技法、治療関係についてご紹介します。

1. 治療の枠組みと治療者の基本

鈴木 智美（精神分析キャビネ）

- (1) 治療構造
- (2) 治療対象の見立てと治療契約
- (3) 治療者の基本的態度

◆参考図書：

- 1) 小此木啓吾他 精神分析セミナー I. 『精神療法の基礎』（岩崎学術出版社）
- 2) 馬場禮子 『精神分析的 心理療法の実践』（岩崎学術出版社）
- 3) 古賀靖彦編 「現代精神分析基礎講座第1巻精神分析の基礎」（金剛出版）

2. 耳の傾け方と言語的介入技法

松木 邦裕（精神分析オフィス）

- (1) 聴くこと
- (2) 話すこと
- (3) 解釈

◆参考図書：

- 1) 『耳の傾け方』 松木邦裕著 岩崎学術出版社
- 2) 『改訂増補 私説 対象関係論的心理療法入門』 松木邦裕著 金剛出版

3. 治療者—患者関係

小波蔵 かおる（ひいらぎクリニック）

- (1) 転移
- (2) 無意識的幻想

(3) 投影同一化

◆参考図書：

- 1) Klein, M. 「転移の起源」、メラニー・クライン著作集 4 (誠信書房)
- 2) Isaacs, S. 「空想の性質と機能」、対象関係論の基礎 (新曜社)
- 3) Klein, M. 「分裂的機制についての覚書」、メラニー・クライン 4 (誠信書房)

III. フロイトの精神病理の基礎

コーディネーター：古賀 靖彦

フロイトの精神病理学は、不安-防衛論、精神-性発達論、ナルシズム論、対象喪失論などが基礎をなしています。ここでは、それぞれの主題に関して、フロイトの原著を中心に解説します。

1. 発達-退行モデル、不安-防衛モデル、性欲論

岡田 暁宜 (名古屋工業大学保健センター)

- (1) メタサイコロジー
- (2) 欲動論
- (3) 精神病理学

◆参考図書：

- 1) Rappaport, D., Gill, MM. (1956) The points of view and assumptions of metapsychology, Int J Psychoanal, 40:153-162.
- 2) S・フロイト (1895) 「ある特定の症状複合を『不安神経症』として神経衰弱から分離することの妥当性について」、フロイト全集 1
- 3) S・フロイト (1926) 「制止、症状、不安」、フロイト全集 19
- 4) S・フロイト (1905) 「性理論のための3篇」、フロイト全集 6

2. ナルシズム論

古賀 靖彦 (油山病院)

- (1) 「レオナルド・ダ・ヴィンチの幼年期の思い出」から「ナルシズムの導入にむけて」まで
- (2) フロイト以後の発展

◆参考図書：

- 1) S・フロイト 「レオナルド・ダ・ヴィンチの幼年期の思い出」『フロイト全集 11』
- 2) S・フロイト 「自伝的に記述されたパラノイアの一症例に関する精神分析的考察〔シュレーバー〕」『フロイト全集 11』
- 3) S・フロイト 「ナルシズムの導入にむけて」『フロイト全集 13』

3. 対象喪失論

奥寺 崇 (クリニックおくでら)

- (1) 対象喪失の日常心理から深層心理へ
- (2) 喪とメランコリー
- (3) その後の S・フロイト理論

◆参考図書：

- 1) 小此木啓吾『対象喪失』
- 2) S・フロイト (1917)「喪とメランコリー」『フロイト全集 14』
- 3) S・フロイト (1920)「快感原理の彼岸 V、VI」『フロイト全集 17』
- 4) S・フロイト (1923)「自我とエス III、V」『フロイト全集 17』
- 5) S・フロイト (1927)「フェティシズム」『フロイト全集 19』

IV. 精神分析技法の基本的概念

コーディネーター：松木 邦裕

この回では、精神分析や精神分析的な精神療法の実践はその技法を身に着けることが必要です。そうした技法に関連する重要な臨床概念を学びます。それらは一般臨床場面にも有用です。

1. 抵抗と転移・逆転移

松木 邦裕(精神分析オフィス)

- (1) 抵抗
- (2) 転移
- (3) 逆転移

◆参考図書：

- 1) 藤山・北山監訳 サンドラー他著 患者と分析者 誠信書房 2008

2. 行動化/陰性治療反応

古賀 靖彦 (油山病院)

- (1) 行動化
- (2) 陰性治療反応
- (3) フロイト以後の発展

◆参考図書：

- 1) S・フロイト「あるヒステリー分析の断片」『フロイト全集 6』
- 2) S・フロイト「想起すること、反復すること、ワークスルーすること」『フロイト技法

論集』岩崎学術出版社

- 3) S・フロイト「ある幼児期神経症の病歴より（狼男）」『フロイト全集 14』
- 4) S・フロイト「自我とエス」『フロイト全集 18』
- 5) S・フロイト「終わりある分析と終わりなき分析」『フロイト全集 21』

3. 解釈とワーキングスルー

松木 邦裕（精神分析オフィス）

- (1) 解釈
- (2) 精神分析過程とワーキングスルー

◆参考図書：

- 1) 藤山・北山監訳 サンドラー他著 患者と分析者
誠信書房 2008

V. フロイトの症例 ①

コーディネーター：古賀 靖彦

精神分析の学習は症例に始まり症例に戻ります。フロイトは症例を通じて、何を発見し、何を語ったのでしょうか。今回は精神分析の創始に関わった『ヒステリー研究』と、5大症例のうち早期の2症例を取り上げます。また、フロイト以後の見解についても触れます。

1. ヒステリー研究

古賀 靖彦（油山病院）

- (1) アンナ・O
- (2) フロイトの4症例
- (3) カタルシス法と自由連想法

◆参考図書

- 1) S・フロイト・ブロイアー「ヒステリー研究」『フロイト全集 2』

2. ドラ

皆川 英明（広島市精神保健福祉センター）

- (1) Freud 年表と当時のウィーンの状況
- (2) ドラの治療経過
- (3) Freud 以後の見解

◆参考図書：

- 1) S・フロイト「あるヒステリー分析の断片」『フロイト全集 6』

3. 少年ハンス

鈴木 智美（精神分析キャビネ）

- (1) 症例
- (2) エディプス・コンプレックス
- (3) 児童分析

◆参考図書：

- 1) S・フロイト「ある5歳児の恐怖症の分析」『フロイト全集 10』

VI. フロイトの症例 ②

コーディネーター：松木邦裕

前回に引き続き、フロイトの症例から精神分析を学びます。今回は、フロイトが精神分析技法を推敲したり、より重篤な精神病理に着目した症例に焦点を当てます。

1. シュレーバー

松木 邦裕（精神分析オフィス）

- (1) シュレーバーの手記
- (2) フロイトによる解析と精神病の精神分析
- (3) その後の諸見解

◆参考図書：

- 1) フロイト「自伝的に記述されたパラノイア（妄想性痴呆）の一症例に関する精神分析的考察」（人文書院、岩波書店）
- 2) シュレーバー『ある神経病者の回顧録』（平凡社、中央公論社、筑摩書房）

2. 狼男

権 成鉉（クリニックソフィア）

- (1) 狼男--「ある幼児神経症の病歴より」
- (2) 幼児神経症
- (3) 原光景
- (4) 今日の視点からの狼男

◆参考図書：

- 1) 藤山直樹・監編 フロイト症例論集 2 ラットマンとウルフマン 岩崎学術出版社
- 2) グレン J. カンザー M. (馬場謙一監訳) シュレーバーと狼男 金剛出版
- 3) ガーディナー M. (馬場謙一訳) 狼男による狼男 みすず書房

3. ねずみ男

北山 修（北山精神分析研究室）

- (1) 症例報告
- (2) フロイトの治療記録
- (3) 新しい理解

◆参考図書：

- 1) フロイト全集 10 『強迫神経症の1例についての見解』（岩波書店）
- 2) 北山修監訳『フロイト「ねずみ男」精神分析の記録（人文書院）
- 3) 北山修『精神分析理論と臨床』（誠信書房）

COVID-19の先行きが不透明なため、2021年度（1年次）のセミナーはすべて、ビデオ会議サービス「Zoom」を利用した「ウェビナー」で講義をおこないます。

加えて、2022年度（2年次）および2023年度（3年次）の「Zoom」による受講も可能となるようにいたします。

*「ウェビナー」はインターネット上で実施するウェブ・セミナーで、双方向の質疑応答が可能です。参加や利用の方法は、必要に応じて事務局よりご案内いたします。

受講申し込みについて

受講資格

・2021年3月時点で、医療、心理、社会福祉、教育などの専門の資格を1年以上持ち、あるいは専門職に1年以上就き、守秘義務を果たすことができる人。

申し込み方法

当方HP（<http://ip-fukuoka.org>）のGoogleフォームからお申し込みください。

お申し込みいただいたら、事務局から参加費振込依頼のメールをお送りします。お申し込み後、事務局からの連絡がない場合は、お手数ですがお問い合わせください。

申込書の受理と参加費の振込確認の両方で申し込み完了とします。

* 申込書の記載内容に不備がある場合や、参加資格を満たさない場合は、参加をお断りする場合があります。

受講費

60,000円（通年の受講費）

* 振込者氏名がご本人以外（所属機関等）の場合は、事務局にご一報ください。

申し込み締め切り

2021年4月23日（金）

受講に際してのお願いとお知らせ

- ・受講者側の通信トラブル、機材トラブルなどについて当方は関知しませんので、ご注意ください。
- ・講義は、申し込みをした方のみで視聴し、周囲に音声や画像が漏れないようにご配慮ください。
- ・受講時の録音、録画、スクリーンショットなどは禁止です。
- ・講義資料を転送したり SNS や Web 上にアップしたりしないでください。
- ・講義で知り得た個人情報について、口外したり、SNS や Web 上にアップしたりしないでください。
- ・**セミナーの直前は必ず、当方 HP (<http://ip-fukuoka.org>) をチェックしてください。**
 - * 自然災害や感染症などによる緊急な変更が生じた場合は、直ちに HP に記載いたします。
- ・年度末に受講証明書を発行いたします。
- ・1年次~3年次の全てを受講され、条件を満たした方へ修了証を発行いたします。但し、通年で3割を超えて（講義6コマ以上）ご欠席の場合は、修了証がお出しできません。
 - * ご不明な点は事務局にお問い合わせください。

お問い合わせ先

精神分析インスティテュート福岡支部

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前1丁目19-3 博多駅前ビル 708

TEL.FAX 092-710-5405

E-mail fukuokabranch@jpas.jp